

高松市公の施設指定管理者導入施設に対する評価

評価対象期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日

施設名	高松市文化芸術ホール		
指定管理者	公益財団法人 高松市文化芸術財団	施設所管課等	文化芸術振興課
指定期間	平成27年4月1日～令和2年3月31日(5年間)	公募・非公募の別	非公募
所在地	高松市サンポート2番1号	業務の概要	施設の維持管理・運営業務 ホール(大ホール・第1小ホール・第2小ホール)の貸出 会議室(12)、リハーサル室(3)、練習室(6)、和室等の貸出 上記貸出施設の利用料の徴収に関する業務等 財団主催事業の企画・実施 自主事業(主催(補助)16・主催(独自)4・共催6の実施等 文化芸術振興事業の受託(アーツフェスタ、学校巡回芸術・能楽教室、デリバリーアーツ)
施設の概要	【施設】 鉄筋コンクリート造 地下2階・地上7階建(免震構造) 【職員の状況】 常務理事1人、嘱託職員25人、臨時職員4人 【使用時間】 9:00-22:00(9:00-23:00、リハーサル・練習室) 年末年始は休館		

	項目名	元年度	30年度	項目名	元年度	30年度
利用状況等	利用者数	333,213 人	367,037 人	ホール稼働率	73.5	80.7
	自主事業開催数	24	18	会議室・練習室等稼働率	77.4	79.1
	自主事業入場者数	21,483	16,094			
収支状況等	収入総額	480,839 千円	478,247 千円	支出総額	492,859 千円	476,492 千円
	(うち指定管理料)	309,587 千円	296,124 千円	清算額(市へ戻入分)	0 千円	0 千円
	施設使用料収入	118,716 千円	126,250 千円			

評価基準	評価項目	指定管理者自己評価コメント	所管課等評価
1 基本事項	①法令上必要な知識等、安全対策、危機管理	防火・防災管理者を配置するとともに、近隣施設と連携した大規模な火災総合訓練を令和元年度は2回実施するなど、危機管理体制の強化に努めた。 地球温暖化法対策推進法や高松市の環境行動率先実行計画に基づいた温室効果ガス排出量削減などに取り組んだ結果、令和元年度の光熱水料費は、過去3か年の平均値より約1%減少した。	S
	②個人情報の保護、情報公開、環境への配慮		
2 住民の平等な利用確保	①管理運営、施設事業との関連性	平成27年度からの5年間の指定管理期間の最終年度であることから、引き続き、施設の適切な管理運営に努め、利用者にとって快適で安全・安心な施設・設備環境を提供し、ホールの利用促進を図った。 令和元年10月の消費税率改正時には、「高松市文化芸術ホール利用規程」の税率改正に合わせて、利用者にわかりやすい表現に改正するなど、常に利用者目線に立ったきめ細やかな配慮に努めた。	S
	②平等な利用の確保		
3 施設の効用の最大限の発揮	①利用促進対策	新型コロナウイルス感染症対策により、令和2年3月以降の事業はすべて中止または延期となり、入場料収入は計画を大幅に下回った。また、同様の理由により、貸館による収入も、前年度を大幅に下回った。 NHK高松放送局と連携し、NHK・Eテレの人気番組「びじゅチューン！」及びNHK全国放送公開番組「新・BS日本のうた」を、当ホールで開催した。特に、「新・BS日本のうた」は、名前に「松」の字が入っている出演者を6人も揃えるなど、高松公演としての趣向の凝らされた内容となった。 板状の消しゴムをカットして多数の版を作り、それらを組み合わせ、多色刷りの一枚の絵画に仕上げるという独自の表現で注目を集める、消しゴム版画家大倉朗人氏(高松市在住)の作品展及び親子対象のワークショップを企画したところ、当初計画を大幅に上回る市民が来場し、大変な人気を博した。 公演日にチケットのもぎりや来客対応等に従事する公演ボランティア、また広報紙やチラシ等の発送業務に従事する広報ボランティア、いずれも市民と協働して取り組み、公演事業等の円滑かつ効果的な実施に努めた。	S
	②広報・PR対策	新型コロナウイルス感染症対策により、主催(補助)事業のうち2事業が中止となったものの、高松市の補助を受ける中で、香川ゆかりの音楽家による演奏会や高松国際ピアノコンクール連携コンサートなど、質の高い作品を市民に紹介することができた。	
	③企画事業・自主事業	新型コロナウイルス感染症対策により、2つの主催(補助)事業と1つの主催(独自)事業が中止となり、1,800件を超えるチケットの払い戻しを行うとともに、新型コロナウイルス対策により、700件を超える施設予約のキャンセルが発生したが、それぞれ誠意を持って対応した結果、大きなトラブルもなく手続き完了することができた。	
	④市・関係団体・地域等との連携		
	⑤サービス向上の取組		
	⑥相談・苦情への対応		
4 管理を安定して行うための人員及び財政基盤の確保	①職員確保計画等	令和元年度は、例年の2倍の事業量となる開館15周年記念事業が実施されることから、事業アドバイザー及びアルバイトを各1人雇用するとともに、午後1時から午後10時までの勤務形態を新設するなど、職員の心身の疲労軽減を図った。 マナーについての専門講師を招へいし、接遇研修を開催したほか、隣接するe-とびあ-ががわのパソコン講座や先進施設視察など、様々な研修の場を提供し、個々の職員の能力向上に努めた。	A
	②教育・研修	労働基準法の改正により、年5日の年次有給休暇の取得が義務付けられたことから、全職員を対象に上述についての説明会を開催するなど、啓発に努めたところ、業務に支障をきたすことなく全員が取得することができた。	
	③就業規則等の遵守	令和元年度決算においては、法人会計は黒字であったものの、公益目的事業会計及び収益事業等会計の2会計は、新型コロナウイルス感染症対策による赤字額が大きく膨らみ、3会計を合わせると、1,200万円を超える赤字額を計上した。	
	④施設運営の健全性の確保	従来の公立文化施設災害補償保険に加え、施設の老朽化が懸念される中、貸館対応・興行中止保険のほか、ボランティア保険、貨紙幣類の盗難火災保険、自動車保険、常務理事の災害保険に加入している。なお、興行中止保険については、新型コロナウイルス感染症対策に起因する興行中止は保険の対象となっていない。	
	⑤損害保険等	開館15周年記念事業を実施するため、その開催費用として、これまでに積み立ててきた準備金を取り崩し、順調に記念事業を実施してきたが、そのフィナーレを飾る3月開催予定のサンポート狂言会などのビックイベントが新型コロナウイルス感染症対策により中止となった。	
	⑥収支計画と執行管理		
5 管理に係る経費の縮減	①収入の確保・適正な人件費	収益事業のうち、大ホールのビュッフェ運営収入と館内に6台設置している自動販売機による収益は概ね例年程度の収益を達成したものの、公益目的以外の施設貸与は、新型コロナウイルス感染症対策による公演中止等により、ビュッフェ運営等による収入額を上回る赤字額を計上し、収益事業が財団運営の足を引っ張る結果となった。	A
	②運営経費の節減対策・コミュニティビジネスの視点	四国電力のヨンデンプラザ・サンポート様及び香川県・さぬきうまいもんプロジェクト実行委員会様と連携し、それぞれの団体が要する事業費を負担し、財団はPRに努めることとして、前者とは「めざせ名シェフ!夏休み親子クッキング教室」を、後者とは「さぬきマルシェinサンポート」を開催し、多くの家族連れで賑わった。	
	③経営の効率化	民として継続的にコンプライアンスに取り組み、ステークホルダーの信頼を得つつ、公益法人として、行政庁から事業計画書や事業報告書等の審査・検査を受けながら、自らがバランスポイント強化を図っている。	
	④合理的な会計制度	公益法人会計基準に適合した会計システムにより財務を処理し、会計事務所のチェックを経た上で、公認会計士を含む監事2人による監査、評議員会等の審査・承認を受け、その結果等をHPで公表している。	

総合評価コメント	総合評価
公益財団法人高松市文化芸術財団は、高松市文化芸術ホール開館時(平成16年)より指定管理者として、関係法令等に基づき、施設の維持管理・運営を適切に行っている。 令和元年度においては、開館15周年記念として、例年の自主事業を大きく拡充して取り組んだが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、令和2年3月に予定していた大型の事業がすべて中止または延期となり、入場料収入は計画を大幅に下回ったほか、貸館利用も落ち込んだ。しかしながら、前例のない状況の中、情報収集や利用者への誠実な対応に努めたことにより、施設への信頼の維持につながっていると考える。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を除けば、良好な経営状態を維持していると言え、ホールのPR・広報活動やニーズに即した事業選定等の運営努力や、助成金の獲得など自主財源確保とあわせた効率的経営を目指す努力も評価できる。 総じて、適正・堅実な管理運営を行っており、引き続き、本市における文化芸術の創造・発信拠点施設として、さらなる価値の向上に努めてもらいたい。	A